

令和元年第2回魚沼市議会定例会

一般質問通告者一覧表

質問順	議席番号	質問者	質問方式
6月18日(1日目)			
1	2	浅井宏昭	一問一答
2	9	佐藤敏雄	一問一答
3	3	星野みゆき	一問一答
4	4	大桃俊彦	一問一答
5	13	佐藤肇	一問一答
6	19	遠藤徳一	一問一答
7	11	大平栄治	一問一答
8	8	志田貢	一括
6月19日(2日目)			
9	1	星直樹	一問一答
10	16	本田篤	一括
11	15	高野甲子雄	一問一答
12	5	大桃聡	一問一答
13	6	大平恭児	一問一答
14	18	大屋角政	一問一答
15	10	岡部計夫	一問一答
16	12	渡辺一美	一問一答

※一括：一括質問一括答弁。質問を一括して行い、それに対する答弁も一括して行う。

※一問一答：初回は一括質問一括答弁とし、再質問以降は一問ずつ質問、答弁を行う。

令和元年第2回魚沼市議会定例会一般質問通告一覧

令和元年6月18日（1日目）

【メモ】

1番（議席2番）浅井宏昭 一問一答

1. 須原を拠点とした北部地区の活性化について
 - (1) 須原を滞在できるエリアとしていくことで、さらに交流人口を増やしていける可能性があると考えがどうか。
 - (2) 須原を只見線沿線の観光及び情報発信の拠点として、北部地区の活性化を図ってはどうか。
2. 高齢者の運転免許自主返納について
魚沼市は運転免許証を自主返納された方に魚沼市乗合タクシー等共通回数券（22枚綴5セット）11,000円分を1度だけ交付しているが、継続して使い続けられる割引制度に変えてはどうか。

2番（議席9番）佐藤敏雄 一問一答

1. 高齢者等による事故防止策について
 - (1) 魚沼市は運転免許証返納者に対して11,000円分の魚沼市乗合タクシー等共通回数券を交付しているが、一回限りの制度である。公共交通機関の活用と助成制度などの組み合わせで、免許を返納しても何とかなる工夫が必要と思うがどうか。また70歳以上のドライバーは運転免許証の更新時に講習会や適性検査があるが、厳格化も必要と考える。あわせて安全運転支援装置が装備された車に限定することや運転時間や運転地域を制限するなどの検討も必要と考えるが、市長の見解を問う。
 - (2) 市内危険箇所の再点検を実施して、ガードレール、車止め、ゾーン30など、歩行者を守るための緊急な対策が必要と考えるがどうか。
 - (3) 子供たちの被害が目立っている。最近起きた事故などを参考に、教育委員会だけでなく警察や保護者の意見などを聞いた中で、通園・通学路の再点検、安全対策が必要と考えるが、市長の見解を問う。
 - (4) 常に安全を意識した運転が必要である。広報紙等で、緊急に徹底した運転指導などを実施するよう提案するが、市長の見解を問う。

2. 特殊詐欺の防止策について

- (1) 犯人は証拠につながるため、会話を録音されることを一番嫌っていると聞く。高齢者世帯等に留守番電話の設置を進め、一定の条件で助成制度をつくることも必要と考えるが、市長の見解を問う。
- (2) 詐欺被害防止に向けた広報活動の強化が必要である。特に高齢者に対しては、警察と連携して、詐欺犯の手口や防止対策などについて、文書配布や訪問指導の徹底を図っていくべきと思うがどうか。

3番（議席3番）星野みゆき 一問一答

1. 通学路の安全対策、学校における交通安全教育について

- (1) 通学路の安全点検の実施及び安全対策はどのように行っているか。
- (2) 集団登校を行っていない学校での登下校時の安全対策はどのように行っているか。
- (3) 中学校における交通安全教育が必要と思うがどうか。
- (4) 小学生の自転車用ヘルメットの必要性についてどのように考えているか。
- (5) 交通事故撲滅に向けての新たな活動や取り組みはあるか。

4番（議席4番）大桃俊彦 一問一答

1. 中高年のひきこもり支援について

- (1) 内閣府が2019年3月に発表した、40歳から64歳でひきこもりの人が61万人以上との調査結果について、どのように受け止めたか見解を問う。また中高年のひきこもりの認知度はどうだったか。
- (2) 魚沼市として、中高年でひきこもりの人の現状を把握しているか。またどのような対応策を検討し、取り組むのか。
- (3) 行政として、相談ができず埋もれているひきこもりの人たちを探し出す、おせっかい役や地域力が必要と思うがどうか。
- (4) ひきこもりからの自立支援として、当事者や家族が気軽に立ち寄れる場所づくりを検討してはどうか。
- (5) ひきこもりの定義は、家族以外と交流しないで6カ月以上自宅にいる状態としているが、この定義をどのように受け止めているか見解を問う。

5番（議席13番）佐藤 肇 **一問一答**

1. ゼロエネルギーハウス普及支援策を問う

- (1) これまで再生可能エネルギー普及促進事業の補助金などにより市内で太陽光発電設備が設置された実績を問う。
- (2) 市として現行の省エネ住宅設備の補助金に地中熱利用を追加してはどうか。
- (3) 魚沼市の場合、個人住宅の屋根消雪などの目的で井戸の設置が進んでいる。既存井戸に閉塞型集熱管を設置できるほか、平成31年度からは地下水の開放熱利用でも環境省の補助金対象になった。新たに井戸を掘削する必要がないことから普及が期待できる。魚沼市の新戦略として地中熱利用促進を進めてはどうか。
- (4) 現在、魚沼市では地下水の保全に関する条例によって、井戸掘削は許可事項となっている。この条例は、消雪のため地下水をくみ上げ、散水消雪に利用する水量に制限を加え、地下水の保全を図るものだが、地中熱利用のための井戸掘削、ヒートポンプによる地下水利用などは明記されていない。井戸要件の追加変更など必要な条例整備を進めてはどうか。
- (5) 平成28年度に守門庁舎の乗り入れ道路に地中熱を利用したヒートパイプ融雪を設置している。その成果、融雪効果はどうだったのか。また同様な設備を広く個人住宅にもPRしていけると考えるがどうか。
- (6) ゼロエネルギーハウスの商品化は、大手ハウスメーカーが先行しており、市内の建設業者などは国や県が用意している補助金制度を知らないところも多い。講習会や事例紹介など周知を図る必要がある。また補助金申請手続きや住宅完成後の実績報告資料作成など、市で支援やフォローアップができないか。

6番（議席19番）遠藤 徳一 **一問一答**

1. 職員採用育成について

- (1) 次世代のリーダー育成のためにも起業意識を高揚させるビジネス系カリキュラムを受講させてはどうか。
- (2) IJUターン枠を設け所管課を増設し、経験等による受け入れ態勢強化や新たな気づきを政策化する活動をしてはどうか。

- (3) 多様なビジネスモデルや仕組み構築の経験がある方を行政事務に活用することも刺激になり、活性化につながると考える。企業と連携し、社会人枠の拡充を図ってはどうか。
- (4) 若手職員と企業との異業種交流を図り、多様な経験の中で市の成功事例を積み上げるのもリーダー育成になると思うが取り組んではどうか。
2. 地域文化財による交流人口の増加は図れるか。

小出地区正円寺太子堂の木喰上人遺作木喰仏聖徳太子像は顕彰会を立ち上げ活動している。新潟県では木喰仏が多く残されており、活性化につなげたり各地区で書籍が発行されたりして、持ち合わせる地域間で交流も生まれている。魚沼市は財産として持ち合わせていても、発信がなく、県内でも発信のエアポケットとなっている。魚沼市でも文化財指定を行い、観光や地域活性化等を事業展開してはどうか。

7番（議席11番）大平栄治 一問一答

1. 除雪車の無償譲渡を問う

市は、平成29年度に細野区の要望を受け、ロータリ除雪車1台を無償譲渡している。

- (1) 市は無償譲渡するにあたり、本除雪車の使用目的は市の除雪業務を補完することを条件としている。市は市内一様に除雪体制を組み、市民生活に支障が出ないように除雪を実施しているが、細野区だけ地域が除雪を補完しなければならない状況とはどういうことか。
- (2) 市は公共の目的で除雪車を無償譲渡したのだから、その後の運用状況を確認する責任があるが、全く調査していなかった。ことし4月に現地調査をしたようだが、その報告書を見る限り、私的使用の事実が明らかになった。なぜこのようなことになったのか。
- (3) 譲渡を受けた除雪車は、譲渡後3年間ほかの目的に使用できないことになっているため、作業日報などを聴取し、使用状況を確認する責任がある。どうなっているのか。
- (4) 市が確認した除雪車の稼働状況はどうだったのか。細野工業団地企業の駐車場除雪をやっているようだが、全くの私的使用である。財産の交換、譲与、無償貸付等に関する条例第6条第1号に規定した公益的必要性とした要望書記載の条件とは明らかに違う。無償譲渡した市長の責任と考えるがどうか。

2. 寿和温泉改修を問う

- (1) 露天風呂、ヘルスセンター、プールの3施設に総額8億円近い予算をかけ、3年かけて大規模改修をするという計画をつくったのは誰か。
- (2) 平成31年度予算に寿和温泉改修工事の予算を計上しなかった。地域要望等を考慮しながら計画を見直す考えだとわかったが、平成29年度に設計委託したことが全く無駄になったのではないか。市長の見解を問う。
- (3) 温泉施設はなくさないでほしいという地域要望は、今のような大規模施設を残してほしいというものではない。露天風呂棟を改修し、冬期間も使える内湯を整備すれば解決する話である。寿和温泉を今後どのようにしたいのか、市長の考えを問う。

3. 代表監査委員の任命責任について問う

前回の一般質問で、私の質問に対する代表監査委員の答弁は、質問に答えられないばかりか、監査請求の全文を延々と朗読し、議員に許された一般質問の持ち時間を浪費した。

- (1) 星野代表監査委員は、議会という厳粛な場で不誠実な行動をとり、会議の進行を妨げた。このような人を代表監査委員に就任させた市長の任命責任を問う。
- (2) 本年1月16日送達住民監査請求の監査結果で、請求を棄却とした理由に「請求人の主張は単なる憶測で、行政上の判断等の問題に対する主観的見解を述べたに過ぎない」としている。単なる憶測とはどういうことか。何を証拠に憶測と決めつけたのか問う。

4. 斎場問題と議員の責任を問う

これまで私は、魚沼市斎場建設事業において、でたらめな行政執行が行われてきたことを4年間に渡り指摘し続けてきた。市長をはじめ、担当課長は、現実を無視し当局の都合のいい解釈で虚偽の議会答弁を繰り返してきた。また、問題が明らかになって以降、関係する諸議題に対し、議会の承認、議決が行われてきた。市長と議会は車の両輪に例えられるが、市政を間違った方向に走らせれば、議員もそれ相応の責任を取らなければならない。斎場問題に対し市長は、議会の責任、議員の責任をどのように考えているのか、見解を問う。

8番（議席8番）志 田 貢 一括

【メモ】

1. プレミアム付き商品券について

今回のプレミアム付き商品券事業は、国主体の消費税増税に伴う低所得者、子育て世帯の消費に与える影響に対する支援である。これを機に市として独自のプレミアム付き商品券事業を同時に行えば、経済効果があると思うがどうか。

9番(議席1番)星 直 樹 一問一答

1. 観光政策と地域活性化について

- (1) 観光地までの歩道の除草作業を早期に行い、芝桜まつり、夏の雪まつり、ヒルクライム、銀山フェス等のイベント前の景観整備に力を入れてはどうか。
- (2) 尾瀬の玄関口である奥只見ダム駐車場のトイレを洋式、暖房便座に整備しないか。

2. 大湯温泉スズラン通りの整備について

- (1) 平成29年第1回定例会で、安全安心の観点から、緊急車両が通行できるようにするため、共同浴場側の一部区間の拡張について地権者と協議を行っているとの答弁があつてから2年以上が経過した。協議はどのように行われてきたのか。進展はあつたのか問う。
- (2) 共同浴場側の一部区間のみでなく、全区間(230m)最低限、緊急車両がスムーズに通行できるように早急に改良計画をつくり、地元へ提示し、道路改修を進めるべきと考えるがどうか。

10番(議席16番)本 田 篤 一括

1. 小出郷図書館の利活用について

- (1) 購入したばかりの小出郷図書館ではあるが、これまでの利活用と何ら変わらない状態である。小出商工会からの請願を受けた以上、まちづくりの拠点として整備していく必要があると考えるがどうか。
- (2) 十日町市では、市外から若手の設計士を呼び、市民交流センターとして分じろう、十じろうを開設した。同じ手法を取らなくても、参考にすべきと思うがどうか。
- (3) 庁議にすら上がらない中央図書館構想だが、再度考えるときが来たと思うがどうか。

2. 空き家解体の補助金を

魚沼市では、魚沼市空き家等の適正管理及び有効活用に関する条例を施行するなど、空き家に対しての取り組みを行っている。これらの取り組みに、安全確保のために風雪害等で倒壊のおそれがある空き家の解体を行う場合、費用の一部を補助するような制度を加えてはどうか。

11番（議席15番）高野 甲子雄 **一問一答**

1. 小出インターの名称変更について

魚沼市は観光誘客を大きな政策としていると認識している。魚沼市の入り口看板ともいえる高速道路インターの名称変更の検討状況はどの程度進んでいるのか。

2. 食教育としての「子どもが作る弁当の日」について

「子どもが作る弁当の日」が提唱され、実践校が増えていると言われている。魚沼市の学校でも実践してはどうか。

3. 入広瀬小学校の存続について

(1) 入広瀬小学校に新入学児童がない状況が2年続いている。この事態をどう受け止め、対応しているのか。

(2) 入広瀬地域は高齢化、人口減少問題から派生する課題が多い。入広瀬地域全体として特化した対策、施策が必要と感じるが市長の課題認識はどうか。

12番（議席5番）大 桃 聰 **一問一答**

1. 新庁舎前の道路改良について

新庁舎前のメイン道路は都市計画道路から掘り割り部分まで改良が行われたが、掘り割り部分が狭窄なことと、地域振興局の入り口は複雑な5差路に、また国道17号取り付け部分は変則になっており、改良が必要と考えるがどうか。

2. 旧小学校跡地の利用計画について

旧井口小学校は昨年度校舎の解体工事が完了し更地となっているが、今後の利用計画は立ててあるのか。また、旧大沢小学校、旧東湯之谷小学校の校地についてはどうか。

3. 庁舎管理規則について

魚沼市庁舎等管理規則では、行為の制限等として「庁舎等において次に掲げる行為をしようとする者は、庁舎等使用許可願を提出し、庁舎管理責任者の許可を受けなければならない。ただし、庁舎管理責任者が軽易なものと認めるときは、口頭をもって許可願に代えることができる」となっており、「(1) 物品の販売その他これに類する商業的行為をすること」はこれに該当するが、きちんと運用されているか問う。

4. 斎場建設瑕疵担保請求について

平成31年2月25日に魚沼市職員措置請求を行ったが、その通知が平成31年4月25日に出され、請求に理由がないとされた。また監査の結果は、勧告に対し市が対策を講じてから2カ月程度のため、当面市長が行う対策の推移を見守ることとした。

しかし、私の指摘に同意したかのように監査委員からは、市長

に対して債権管理について最高裁判例も承知の上で対策を進めるように、また督促状の様式が条例に基づいていない点、遅延損害金の説明が旧地権者がない点などを意見として付してある。1月末に訪問した後の経緯及び今後の対策はどうか。

13番（議席6番）大平 恭 児 一問一答

1. 介護人材確保について

介護現場は、非常に深刻な人手不足と聞く。

- (1) 事業所や法人の努力だけでは無理がある。現場の知恵を集め、市全体で取り組む必要がある。事業所、法人や民間との本格的な協議を行うべきと考えるがどうか。
- (2) 学校教育で職場体験だけでなく、介護などの福祉分野の位置づけ、果たしている役割を含む体系的な講義も取り入れてはどうか。
- (3) 介護事業所に就職したらメリットが感じられる施策、住宅や子育てへの助成、特に夜間勤務に手厚い支援も検討すべきと思うがどうか。
- (4) 民間事業所なども経営は深刻であり、民間とはいえ公的性格の強い介護事業に対して、社会福祉法人と同様に固定資産税などの軽減や冬場の除雪等への支援も考えていくべきと思うがどうか。
- (5) 将来的な取り組みとして、外国人材の受け入れなど、体制整備も検討していく考えはないか。

2. 公共交通について

- (1) 北部地域では、路線バスなどの便数が減少し、医療機関に行くのも大変な状況である。特に高齢者には負担になっている。実態に応じて便数を増やし、さらに小出地域などへの直通便も検討すべきである。協議会では検討されていないのか問う。
- (2) 運賃も高く、重い負担となっている。補助も検討すべきと考えるがどうか。
- (3) 魚沼基幹病院に行くのに丸一日かかる、何とかならないかという声も多く聞く。魚沼基幹病院への直通便を真剣に検討すべきと考えるがどうか。

14番（議席18番）大屋角政 一問一答

1. 洪水ハザードマップの避難所について

今月下旬に魚沼市の洪水ハザードマップが市民に配布される。

- (1) 従来の避難所が使えなくなっている場合、地元地域でも避難所が見つからない場合などどうすればいいのか。
- (2) 市民に配布されるハザードマップに示された避難所は、市が開設して運営管理するものと理解してよいか。
- (3) 避難所はどの段階で開設するのか。
- (4) 避難所が遠くなる地域は徒歩では避難できない。こうした場合の対策はあるのか。
- (5) 地元の自主防災組織は基本的にどう行動すればよいか。

15番（議席10番）岡部計夫 一問一答

1. 東日本連携・創生フォーラムについて

第1回東日本連携・創生フォーラムが平成27年10月にさいたま市で開催され、平成29年11月の第3回フォーラムから魚沼市も参加した。

- (1) 市長は、どのようなメリットを期待して参加したのか。
- (2) 1日平均2,000人以上の来場者がいる東日本連携センターで、地場産の商材等の販路拡大についてどう取り組むのか。
- (3) 当市の商工会との連携についてどのように考えているか。
- (4) 生産者の顔が見える地方都市との都市間交流をどのように考えているか。
- (5) 都市間交流の受け皿としての体験型シェアハウスの整備は考えているか。

2. 食まちうおぬまについて

毎年10月に「食まちうおぬま」のイベントを開催し、対外的に「うおぬまの食」をアピールしているが、同時期にほかの民間団体も収穫祭として「うおぬまの食」をPRしている。

- (1) 民間団体と合同開催にして、魚沼市の秋の一大イベントとしてパワーアップする考えはあるか。
- (2) 地元商工会・観光協会等との連携の中で取り組む考えはあるか。
- (3) 行政ポイントを活用した取り組みはどうか。

16番（議席12番）渡辺 一 美 一問一答

1. 新生児・乳幼児健診の充実について

(1) 新生児難聴検査について

① 国は全ての新生児の聴覚検査の実施に向けて、全国の自治体に積極的な公費助成を求めており、東京都内ではこれまでの4市村から62区市町村に公費助成実施自治体数が拡大した。魚沼市でも公費助成をスタートすべきと考えるがどうか。

② 魚沼市は検査結果の把握と検査で支援が必要とされた子供への支援はどのように行っているか。

(2) 乳幼児健診における小児がんの早期発見について

① 小児がんの早期発見のためにどのような取り組みをしているか。

② 小児がんの中には網膜芽細胞腫という眼のがんがある。素人でも病状に気づきやすい小児がんでもあり、腫瘍が眼球内にとどまっている場合、眼球を摘出しないで可能な限り残す方針で治療することが多い。そのためには早期発見が重要であるが、網膜芽細胞腫は「白色瞳孔」や「斜視」の症状が現れるので、これらを乳幼児健診でチェックできれば早期発見につなげることができる。乳幼児健診の医師検診アンケートの「眼」の項目に「白色瞳孔」の項目はあるか。

(3) 3歳児健診の視力検査について

子どもの弱視を早期に発見し、早期治療につなげるため、3歳児健康診査で、手持ち自動判定機能付きフォトスクリーナー装置を活用した視力検査を導入してはどうか。

2. ファミリーサポート制度について

魚沼市のファミリーサポート制度について現状の課題と解決策は何か。また費用負担への公費助成を提案するが、市長の見解を問う。

3. 第7期介護保険事業計画について

(1) 特別養護老人ホームについて

第7期介護保険事業計画で、第7期計画期間中に、定員50床の整備計画を進めるとしているが、公募の計画は進んでいるか。

(2) 地域包括支援センターについて

地域包括支援センターについては、日常生活圏を現在の1圏域から3圏域に分け、第7期計画の期間内に全圏域において地域包括支援センターの運営を開始するため、平成30年度に1

カ所、平成32年度に2カ所委託することとし、機能強化を図るとしているが、1カ所目のセンターの利用状況と住民周知は進んでいるか。2カ所目の設置に対する事業者や住民への意見交換の場はどうなっているか。

(3) 特別養護老人ホーム待機者と介護離職について

- ① 現状の待機者と介護離職の実態はどうか。
- ② 県外への入所が後を絶たないと聞くが、その背景は何か。
- ③ 介護離職者を生まない取り組みを実施しているか。